

2025 年度 環境活動報告書

中部製罐株式会社

報告対象期間：2025 年 4 月～2026 年 3 月

2026 年 6 月 発行

はじめに

当社は製造業として環境負荷の低減を重要な経営課題と認識しています。CO₂排出量・鉄スクラップ・廃棄物・水資源の各分野において、3 年以上にわたるデータを継続的に収集・分析し、科学的根拠に基づいた改善活動を推進しています。2030 年に向けた長期目標を明確に設定し、毎年度の実績を誠実に開示してまいります。

代表取締役 萩 高文

① CO₂排出量

■ 2025 年度の目標

▶ 2030 年 大目標

- ・ 1 缶あたりの CO₂排出量を 75 g 以下 (2024 年 84.2g)
- ・ うち電気使用量に対する排出量を 50 g 以下 (2024 年 57.4g)
- ・ 1 缶あたりの不良スクラップを 20 g 以下 (2024 年 24g)

▶ 2025 年度 年間目標

- ・ 1 缶あたりの CO₂排出量を 82 g 以下 (2024 年 84.2 g)
- ・ うち電気使用量に対する排出量を 55 g 以下 (2024 年 57.4g)
- ・ 1 缶あたりの不良スクラップを 23 g 以下 (2024 年 24g)

■ 2025 年度の総排出量と背景

2025 年度の CO₂総排出量は 490.1t となり、前年度の 473.3t から 16.8t (約 3.5%) 増加しました。一方で製造缶数は 2023 年比で 5.6%増加しており、生産量の拡大に伴う排出量増加という側面があります。

増加の主な要因は 2 つあります。第一に、夏場の熱中症対策として導入した大型空調機 (2 台) が 6 月～10 月にかけて稼働したことによる電気使用量の増加です。第二に、LP ガスを使用する製品の製造増加に伴い、LP ガス由来の排出量が前年比 11.4t 増となったことです。

排出源	2023 年 (t)	2024 年 (t)	2025 年 (t)	前年比
電気使用量	310.3	322.7	326.4	+3.7t
LP ガス使用量	118.3	125.3	136.7	+11.4t
ガソリン使用量	23.6	25.3	27.0	+1.7t
合計	452.2	473.3	490.1	+16.8t

■ 1 缶あたりの CO₂排出量 (原単位)

生産規模の影響を排除して環境効率を評価する指標として、1 缶あたり CO₂排出量 (原単位) を管理しています。2025 年度は 84.1g/缶となり、前年度の 84.2g/缶からわずか 0.1g 改善しました。目標数値は 82g/缶でありましたが、未達となりました。

注目すべきは、稼働率が 2024 年の 77.9%から 2025 年の 80.8%へ約 3%回復したにもかかわらず、原単位の改善幅が限定的であった点です。空調設備の稼働増加と LP ガス製品の増産が相殺し、結果として前年並みにとどまりました。

項目	2023 年 (g/缶)	2024 年 (g/缶)	2025 年 (g/缶)
電気使用量	56.3	57.4	56.1
LP ガス使用量	21.5	22.4	23.5
ガソリン使用量	4.3	4.5	4.6
合計	82.1	84.2	84.1
稼働率 (%)	78.9%	77.9%	80.8%

■ 目標と今後の取り組み

▶ 2030 年 大目標

- ・ 1 缶あたりの CO₂排出量を 75 g 以下 (2025 年 84.1g)
- ・ うち電気使用量に対する排出量を 50 g 以下 (2025 年 56.1g)
- ・ 1 缶あたりの不良スクラップを 20 g 以下 (2025 年 23g)

▶ 2026 年度 年間目標

- ・ 1 缶あたりの CO₂排出量を 82 g 以下 (2025 年 84.1 g)
- ・ うち電気使用量に対する排出量を 54 g 以下 (2025 年 56.1g)
- ・ 1 缶あたりの不良スクラップを 22 g 以下 (2025 年 23g)

目標達成に向けた主要施策として、稼働率向上による原単位改善（設備総合効率の向上）、節電活動の徹底（電気由来排出量は総排出量の 67%を占める主要因）、LP ガス使用量の最適管理を計画しています。

■ 年度別 CO₂排出量サマリー (2019～2025 年度)

排出量はすべて tCO₂換算。各数値は GHG プロトコルに基づく Scope1・Scope2 の合計です。

排出源	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
電気 (tCO ₂)	391.6	344.1	312.0	313.9	310.3	322.7	326.4
LPG (tCO ₂)	127.6	121.4	114.0	116.3	118.3	125.3	136.7
ガソリン (tCO ₂)	25.4	21.1	23.3	23.3	23.6	25.3	27.0
合計 (tCO ₂)	544.7	486.6	449.2	453.5	452.2	473.3	490.1
稼働率 (%)	81.3%	81.0%	81.7%	80.6%	78.9%	77.9%	80.8%
製造缶数指数 (2023 年=100%)	105.0%	94.3%	97.8%	98.8%	100.0%	102.0%	105.7%

■ 2025 年度 月次 CO₂排出量データ

各月の排出量 (tCO₂) および 1 缶あたり排出量 (g/缶) の実績値。7～9 月は空調設備稼働により電気使用量が増加しています。

月	電気 (t)	LPG (t)	ガソリン (t)	合計 (t)	1 缶あたり (g)
4 月	24.8	12.5	2.0	39.3	76.3
5 月	24.2	10.7	2.1	37.0	78.7
6 月	27.9	10.6	1.9	40.4	84.9
7 月	36.3	13.4	2.4	52.1	97.4
8 月	29.6	9.2	2.1	40.9	95.4
9 月	35.3	12.3	2.9	50.5	101.4
10 月	30.2	12.2	2.6	45.0	85.0
11 月	22.7	11.5	2.2	36.4	78.8
12 月	25.1	14.4	2.4	41.9	83.5
1 月	23.5	8.6	2.1	34.2	73.6
2 月	21.2	11.1	2.1	34.4	82.8
3 月	25.7	10.2	2.2	38.1	72.1
年間合計	326.4	136.7	27.0	490.1	84.1

② 鉄スクラップ

■ スクラップ削減の意義

鉄スクラップは製缶工程において不可避免的に発生しますが、不良缶由来のスクラップは生産ロスであり、原材料・エネルギーの二重損失につながります。鋼板の購入から缶の製造・検査に至る全工程でロスを排除することが、効率的なエネルギー運用と環境負荷低減の両面から求められます。

■ 2025 年度の実績

直近 3 年間、不良缶スクラップは継続的に減少しています。2025 年度は生産缶数が前年比 3.6%増加したにもかかわらず、不良缶スクラップ重量は 135t から 134t へと減少しました。特に、外観上の軽微な不良は廃棄するのではなく「2 級缶」として販売する取り組みが功を奏しており、廃棄物の発生量抑制に加え、経済的価値の回収にも貢献しています。

項目	2023 年	2024 年	2025 年
不良缶スクラップ重量 (t)	138	135	134
端材重量 (t)	176	180	186
合計スクラップ (t)	314	315	320
1 缶あたり不良缶スクラップ (g)	25	24	23
1 缶あたり端材 (g)	32	32	32
1 缶あたり合計 (g)	57	56	55

③ その他廃棄物・水資源

■ 一般廃棄物の削減

事業所から排出される廃棄物についても、分別の徹底と発生源での抑制に取り組んでいます。

廃棄物種別	2023 年 (kg)	2024 年 (kg)	2025 年 (kg)
燃えるゴミ	2,920	2,890	2,870
燃えないゴミ	80	79	79
合計	3,000	2,969	2,949

今後も廃棄物の発生を抑制するため、購買段階での過剰包装の排除、現場での廃棄物分別意識の向上、リサイクル可能な素材の活用拡大などを継続的に推進してまいります。

■ 水資源の使用状況

当社の製造工程は水を直接の製造原料として使用する工程が少なく、主な用途は洗浄・冷却・生活用水です。2025 年度の水資源使用量は 614 m³で、前年の 618 m³から 4 m³ (0.6%) 削減しました。

年度	水資源使用量 (m ³)
2023 年	621
2024 年	618
2025 年	614

総括と 2026 年度の方針

■ 2025 年度の成果と評価

2025 年度は、製造缶数が増加するなかでも 1 缶あたりの CO₂排出量（原単位）を前年並みに抑え、不良缶スクラップの継続的な削減も実現しました。

大型空調設備の導入は短期的なエネルギー増加要因となりましたが、従業員の作業環境改善と熱中症リスクの排除という社会的価値は極めて高く、長期的には稼働率向上を通じて CO₂原単位の改善にも寄与するものと考えています。

■ 2026 年度の重点施策

- 稼働率の向上：品質改善活動を通じた稼働率向上を最優先課題とし、1 缶あたり CO₂排出量の削減につなげる
- 節電活動の強化：電気使用量が CO₂排出量の 67%を占めるため、設備の稼働スケジュール最適化・照明の LED 化等を推進
- LP ガス管理の最適化：製品構成の変化に応じたガス使用量の精密管理と工程改善
- 不良スクラップの継続削減：2030 年目標（20g/缶以下）に向け、検査精度の向上と 2 級缶販売の拡大を継続

当社は今後もすべてのステークホルダーの皆様との信頼関係を大切にしながら、安全で持続可能な事業活動を実践してまいります。本報告書に対するご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

2026 年 6 月 中部製罐株式会社
代表取締役 萩 高文

【付録】排出係数（GHG プロトコル準拠）

エネルギー種別	単位	排出係数	区分
電気（買電）2019 年	kWh	0.000445 tCO ₂ /kWh	Scope2
2020 年	kWh	0.000441 tCO ₂ /kWh	Scope2
2021 年	kWh	0.000435 tCO ₂ /kWh	Scope2
2022 年	kWh	0.000438 tCO ₂ /kWh	Scope2
2023 年	kWh	0.000423 tCO ₂ /kWh	Scope2
※2024 年	kWh	0.000423 tCO ₂ /kWh	Scope2
※2025 年	kWh	0.000423 tCO ₂ /kWh	Scope2
液化石油ガス（LPG）	t	3.000 tCO ₂ /t	Scope1
ガソリン	kl	2.322 tCO ₂ /kl	Scope1

※ 電気の CO₂排出係数は環境省公表の全国平均値を使用。

※電気の CO₂排出係数は、2024 年は 2024 年度公表の確定値、2025 年は、直近の全国平均値を暫定適用。

※LPG・ガソリンの係数は環境省・経済産業省の「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」に基づく。